

SmartPlant Explorer 2.0 - Oracle 8.0 の設定方法

SmartPlant Explorer (SPE)により PDS プロジェクトのデータを Web ブラウザから参照できるようにする(Publish)ためには、PDS 用のデータベースサーバと SPE サーバとの間のネットワーク設定を行う必要があります。この資料では、SmartPlant Explorer 2.0 と Oracle 8.0.5 を組み合わせて使用する場合の設定方法を説明します。なお、Oracle 8.0.5.1.1 パッチのインストールに関しては、説明を省略しています。

1. 必要な Oracle コンポーネント

Oracle 8.0.5 の CD から各プロダクトのインストールを行う際には、Custom Installation を選択します。

データベースサーバ側では、Oracle Installer 上で以下のプロダクトを選択します。

- Oracle Installer 3.3.1.0.0C
- Oracle Net8 Products 8.0.5.0.0
- Oracle8 (Workgroup Server/Enterprise Edition) 8.0.5.0.0

Oracle Installer により、必要な関連プロダクトも含めてインストールが行われます。

- Assistant Common Files 8.0.5.0.0
- Java(TM) Runtime Environment 1.1.1.0.0
- Oracle Database Assistant 8.0.5.0.0
- Oracle Installer 3.3.1.0.0C
- Oracle Named Pipes Protocol Adapter 8.0.5.0.0
- Oracle Names Server 8.0.5.0.0
- Oracle Net8 Assistant 8.0.5.0.0
- Oracle Net8 Client 8.0.5.0.0
- Oracle Net8 Server 8.0.5.0.0
- Oracle TCP/IP Protocol Adapter 8.0.5.0.0
- Oracle Trace Collection Services 8.0.5.0.0
- Oracle8 (Workgroup Server/Enterprise Edition) 8.0.5.0.0
- Oracle8 Release Notes 8.0.5.0.0
- Oracle8 Utilities 8.0.5.0.0
- Required Support Files 8.0.5.0.0

SPE サーバ側では、Oracle Installer 上で以下のプロダクトを選択します。

Oracle Installer 3.3.1.0.0C
Oracle Net8 Assistant 8.0.5.0.0
Oracle Net8 Client 8.0.5.0.0
Oracle TCP/IP Protocol Adapter 8.0.5.0.0
Oracle8 Utilities 8.0.5.0.0

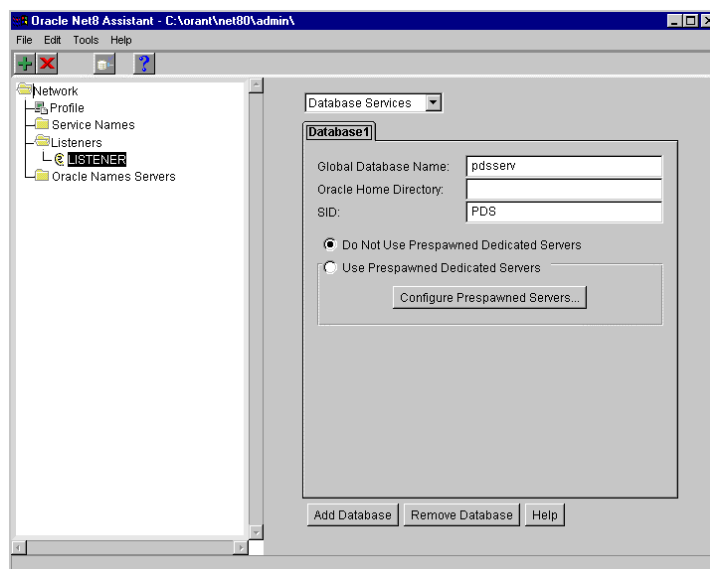
Oracle Installer により、必要な関連プロダクトも含めてインストールが行われます。

Assistant Common Files 8.0.5.0.0
Java(TM) Runtime Environment 1.1.1.0.0
Oracle Installer 3.3.1.0.0C
Oracle Named Pipes Protocol Adapter 8.0.5.0.0
Oracle Net8 Assistant 8.0.5.0.0
Oracle Net8 Client 8.0.5.0.0
Oracle TCP/IP Protocol Adapter 8.0.5.0.0
Oracle Trace Collection Services 8.0.5.0.0
Oracle8 Release Notes 8.0.5.0.0
Oracle8 Utilities 8.0.5.0.0
Required Support Files 8.0.5.0.0

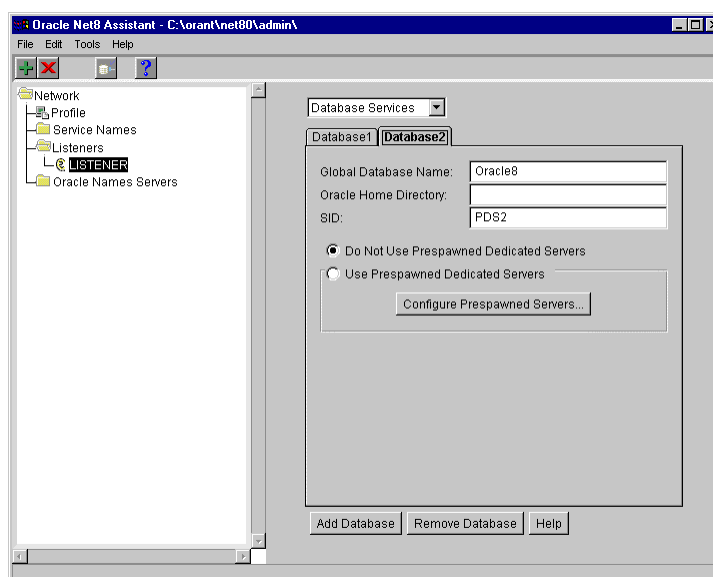
2. データベースサーバ側の設定

データベース(SID)および PDS プロジェクトの作成後、Net8 Server の設定を行います。

Oracle Net8 Assistant を起動し、“Listeners”をダブルクリックします。表示された“LISTENER”を選択します。



上部のドロップダウンリストから、“Database Services”を選択します。SID フィールドに対して、Oracle データベースの SID 名を入力します。複数のデータベースが存在する場合には、**Add Database** ボタンを選択し、同様に SID 名の入力を行います。



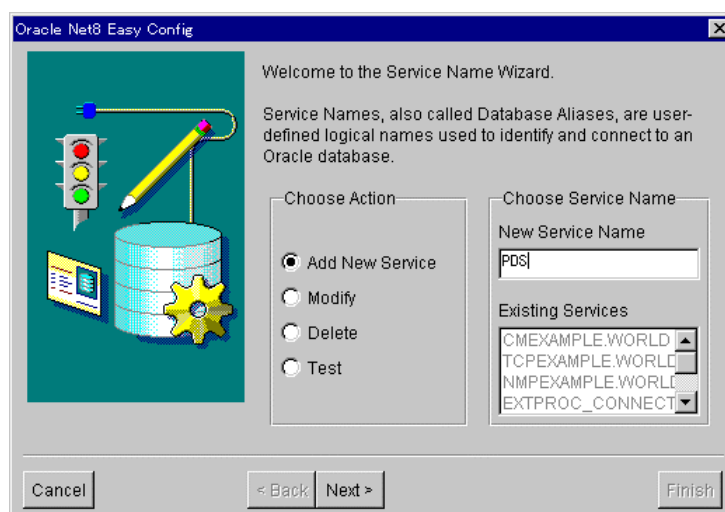
“File”メニューから“Save Network Configuration”を選択します。Oracle Net8 Assistant を終了します。

設定を有効にするため、TNS Listener サービスを再起動します。Control Panel 内の Services アイコンをダブルクリックします。Service リストから“OracleTNSListener80”を選択し、**Stop** ボタンを選択します。サービスが停止した後、**Start** ボタンを選択します。

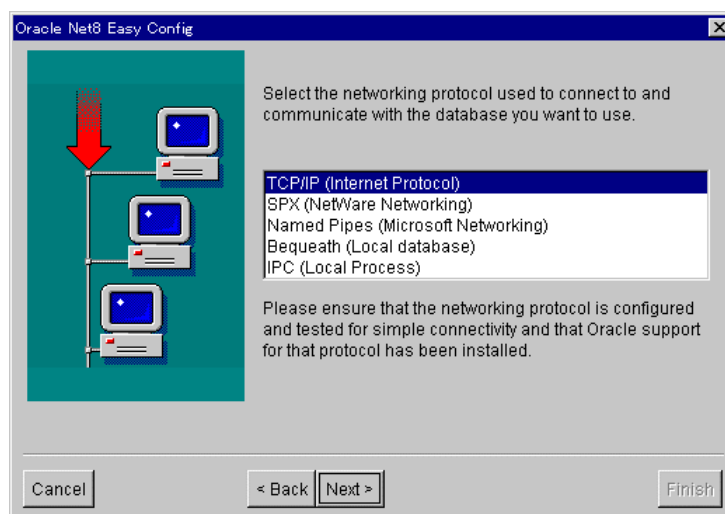
3. SPE サーバ側の設定

SPE サーバ側では、Net8 Client の設定を行います。

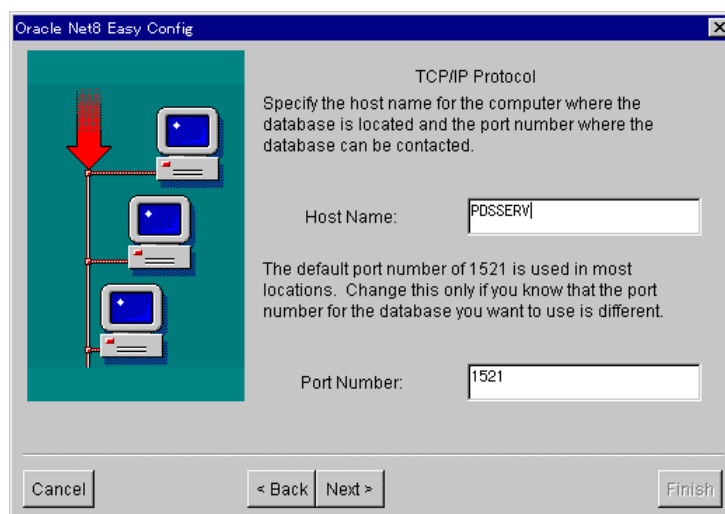
Oracle Net8 Easy Config を起動します。“Add New Services”を選択し、New Service Name フィールドに対してサービス名(データベースエイリアス名)を入力します。**Next>** ボタンを選択します。



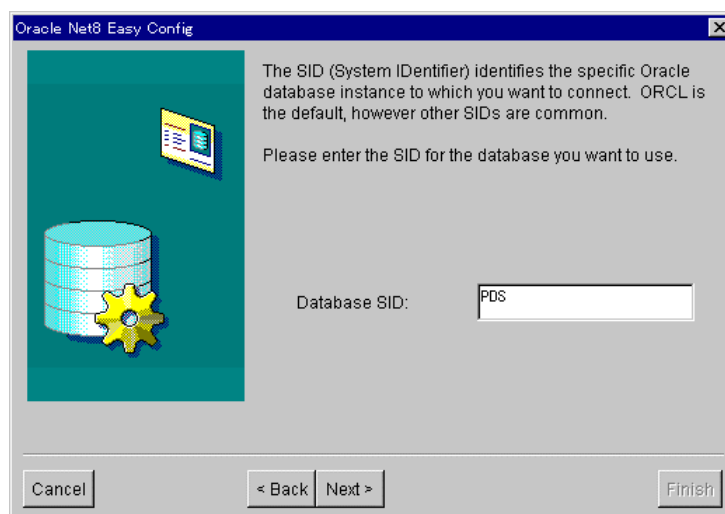
データベースサーバと通信を行う際に使用するプロトコルとして“TCP/IP (Internet Protocol)”を選択し、**Next>**ボタンを選択します。



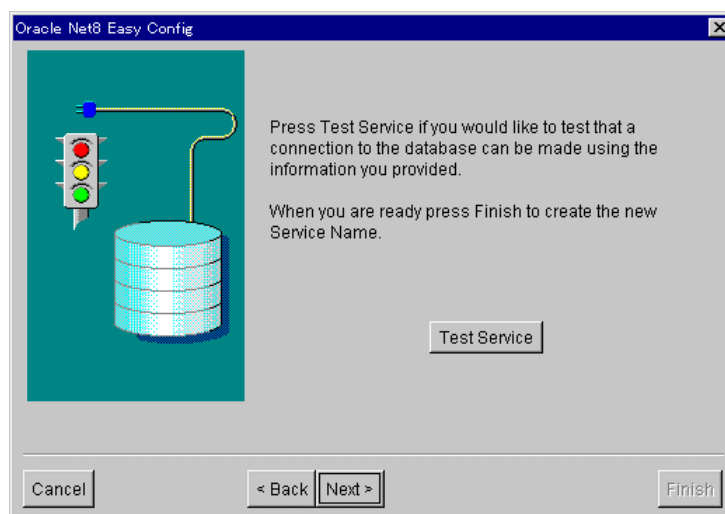
Host Name フィールドに対してデータベースサーバ名を入力し、**Next>**ボタンを選択します。



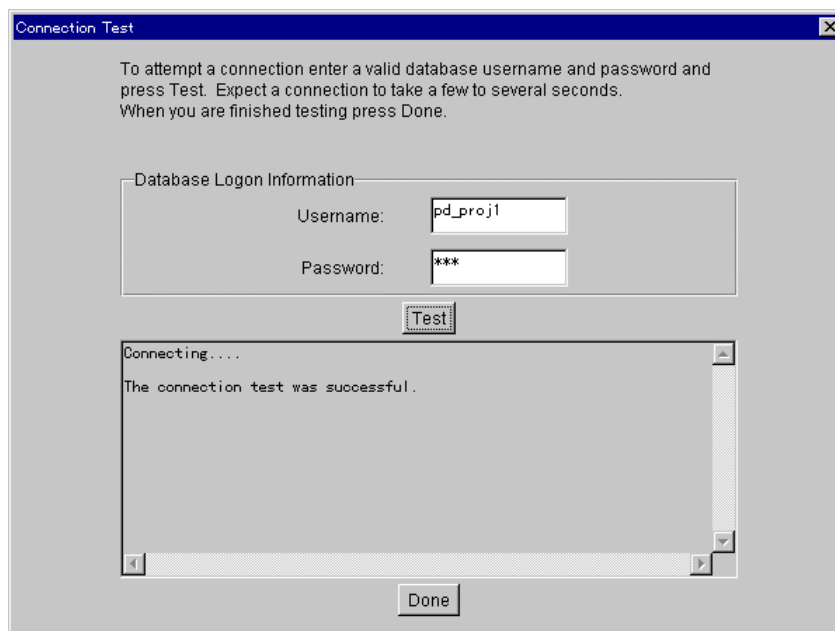
Database SID フィールドに対して PDS サーバ上のデータベースの SID 名を入力し、**Next>** ボタンを選択します。



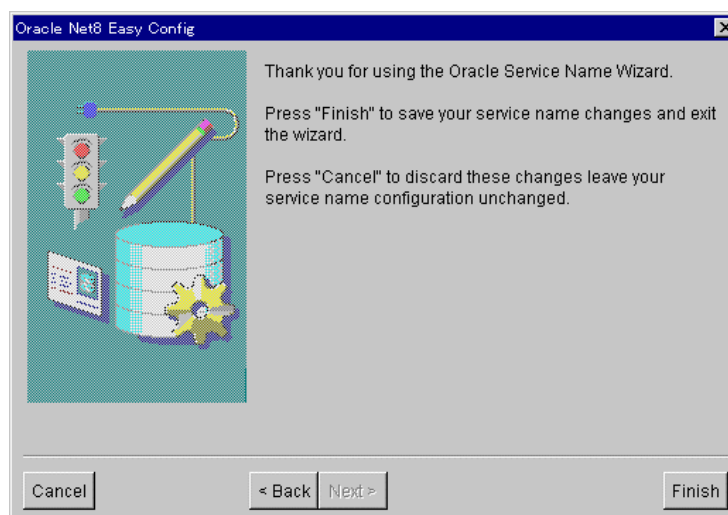
Test Service ボタンを選択し、作成されたサービスのテストを行います。



Username フィールドに対して Oracle データベース上のユーザ名、Password フィールドに対してそのユーザのパスワードを入力し、**Test** ボタンを選択します。接続テストの結果を確認した後、**Done** ボタンを選択し、上図のダイアログに戻ります。**Next>** ボタンを選択します。



Finish ボタンを選択します。



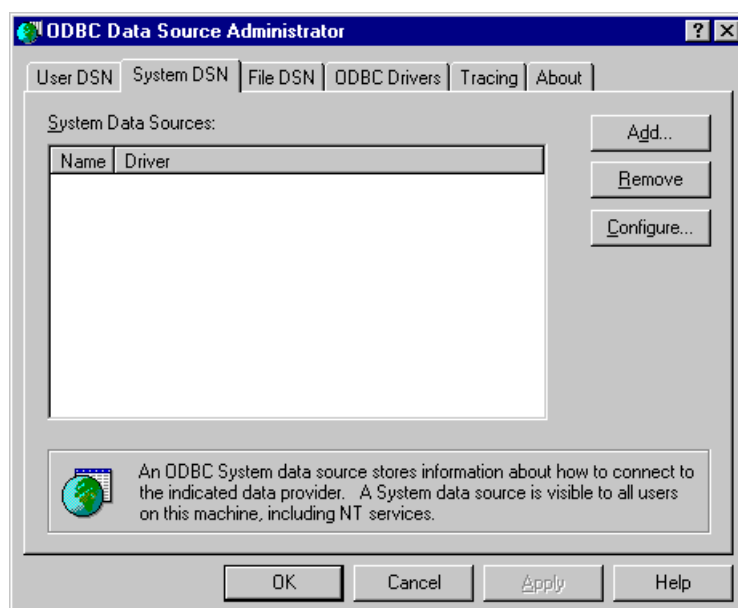
Server Manager を使用してデータベースサーバとの接続テストを行うこともできます。Command Prompt 上で svrmgr30 と入力し、Server Manager を起動します(“ORA-12203: TNS:unable to connect to destination”というエラーが発生しますが、問題はありません)。以下のようなコマンドを入力し、PDS サーバ上のデータベースと接続できることを確認します。

```
SVRMGR> connect system/manager@データベースエイリアス名
```

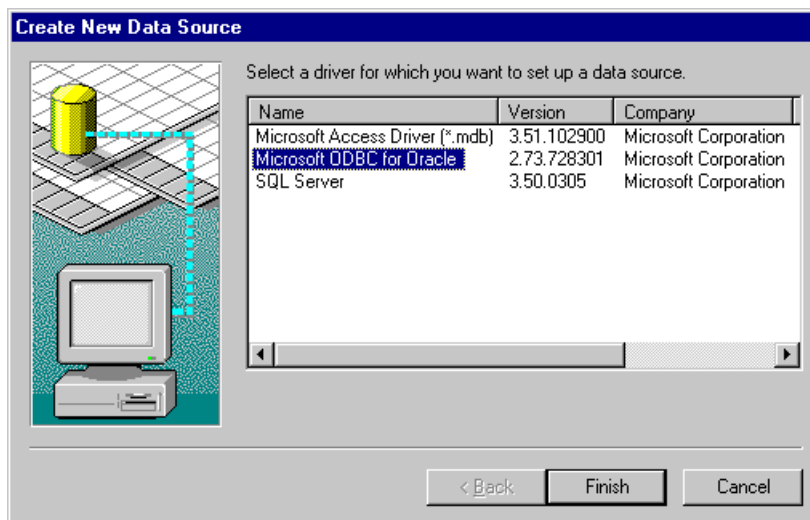
4. ODBC ドライバの設定

SPE は、Windows NT Option Pack に含まれる ODBC ドライバを使用して、Net8 Client との通信を行います。

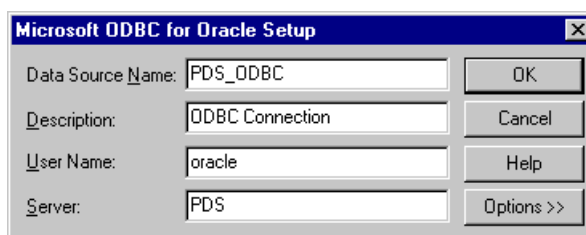
Control Panel 内の ODBC アイコンをダブルクリックします。ODBC Data Source Administrator の“System DSN”タブを選択し、**Add...**ボタンを選択します。



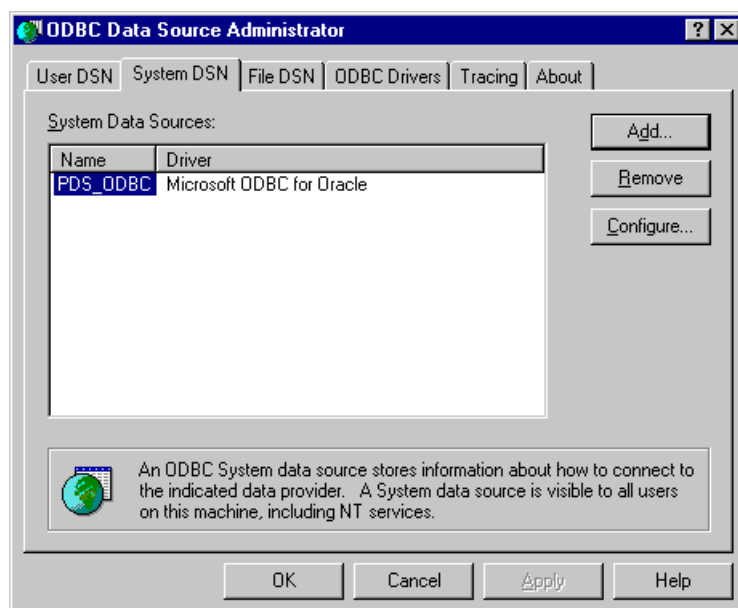
リストから“Microsoft ODBC for Oracle”を選択し、**Finish**ボタンを選択します。



Data Source Name フィールドに対してデータソース名、Description フィールドに対して説明、User Name フィールドに対して通信の際に使用する NT 上のユーザ名、Server フィールドに対して Oracle Net8 Easy Config で作成したデータベースエイリアス名を入力します。**OK**ボタンを選択します。



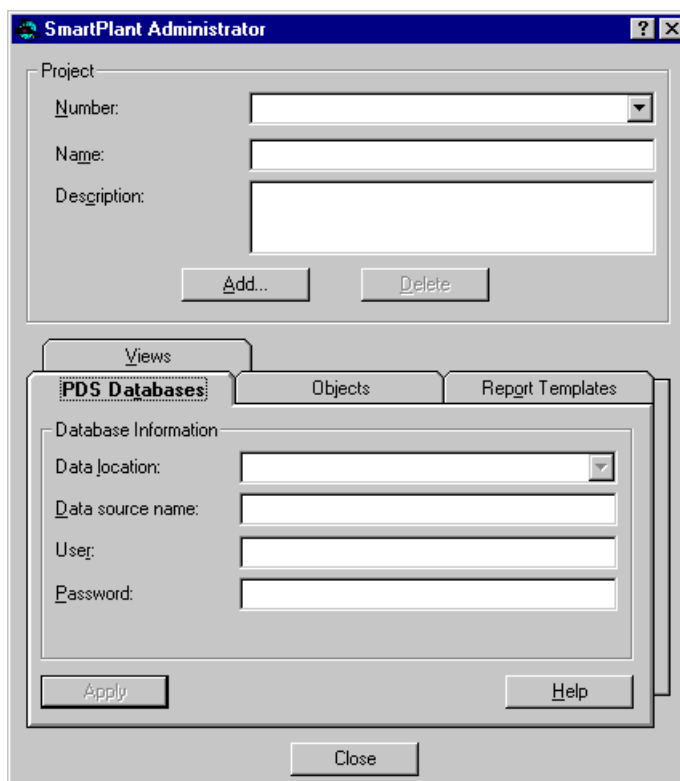
ODBC Data Source Administrator に戻ります。OK ボタンを選択します。



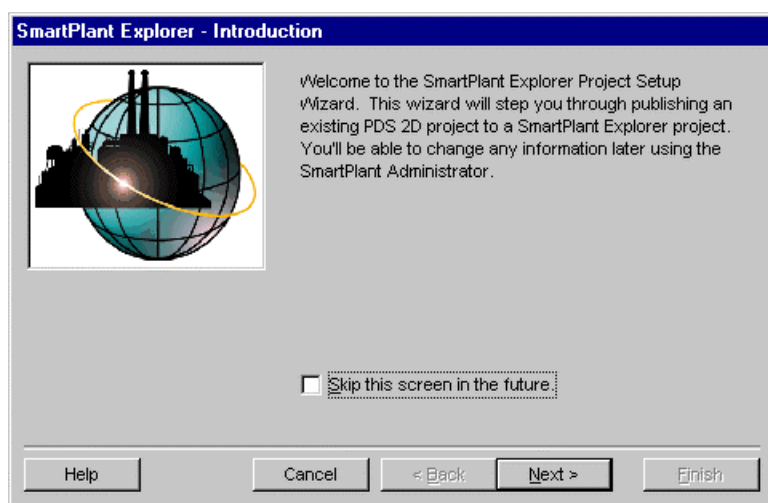
5. PDS プロジェクトの Publish

SPE により PDS プロジェクトの Publish を行う際には、ODBC のデータソース名、Oracle データベース上のユーザ名/パスワードの指定を行います。

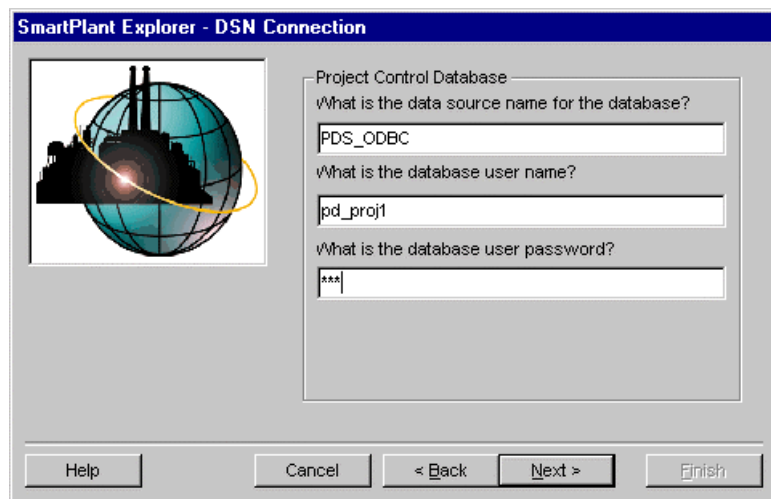
SmartPlant Administrator を起動します。Add... ボタンを選択します。



Next> ボタンを選択します。



ODBC Data Source Administrator で作成したデータソース名、PDS のプロジェクトスキーマ(pd)に対応する Oracle 上のユーザ名、パスワードを入力します。Next> ボタンを選択します。

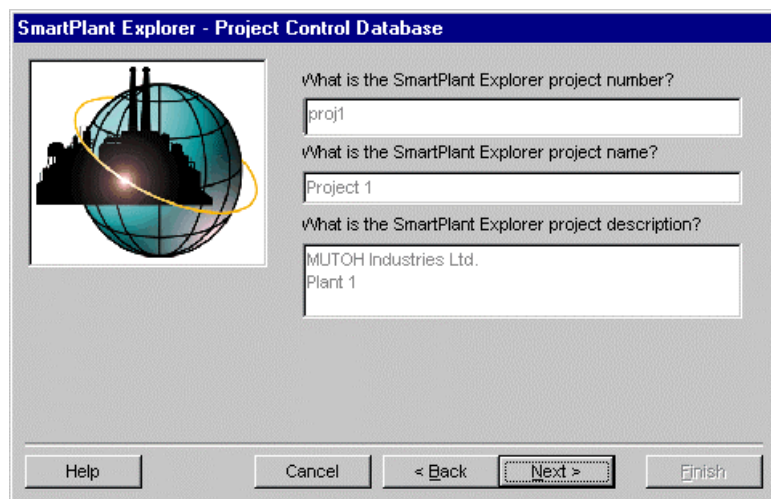


The dialog box is titled "SmartPlant Explorer - DSN Connection". It features a logo on the left showing a globe with a factory silhouette. The main area contains three text input fields with the following labels and values:

- Project Control Database: What is the data source name for the database? (Value: PDS_ODBC)
- What is the database user name? (Value: pd_proj1)
- What is the database user password? (Value: ***)

At the bottom, there are five buttons: Help, Cancel, < Back, Next >, and Finish.

PDS プロジェクトの情報が表示されます。Next> ボタンを選択します。

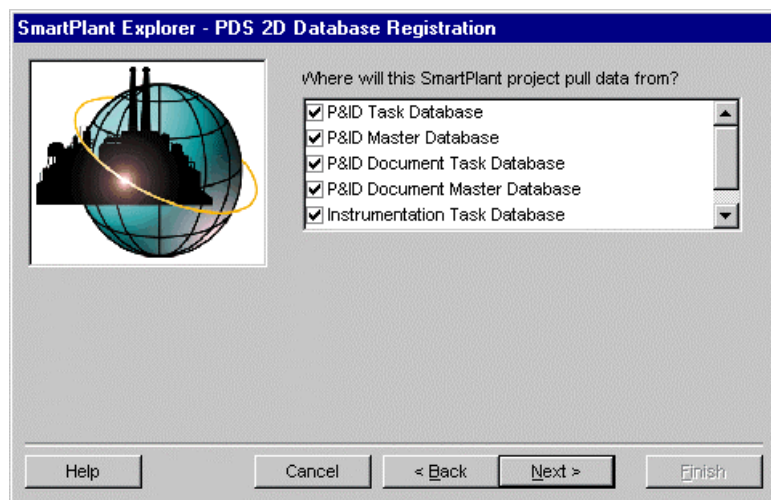


The dialog box is titled "SmartPlant Explorer - Project Control Database". It features the same logo as the previous dialog. The main area contains three text input fields with the following labels and values:

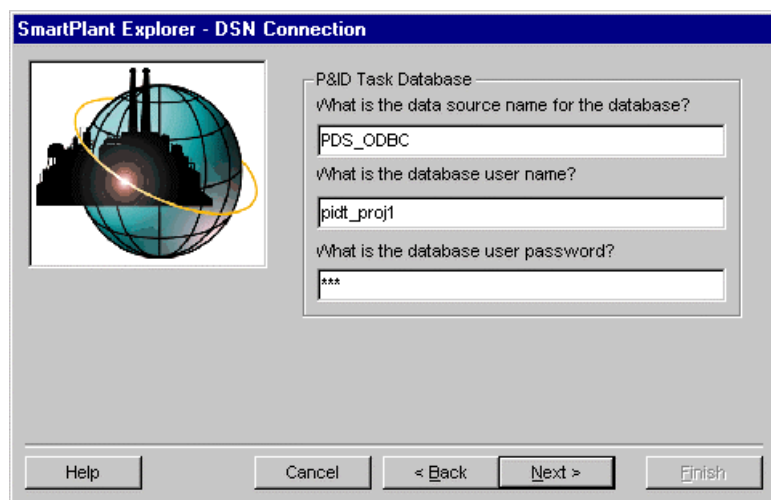
- What is the SmartPlant Explorer project number? (Value: proj1)
- What is the SmartPlant Explorer project name? (Value: Project 1)
- What is the SmartPlant Explorer project description? (Value: MUTOH Industries Ltd.
Plant 1)

At the bottom, there are five buttons: Help, Cancel, < Back, Next >, and Finish. The "Next >" button is highlighted with a dashed border.

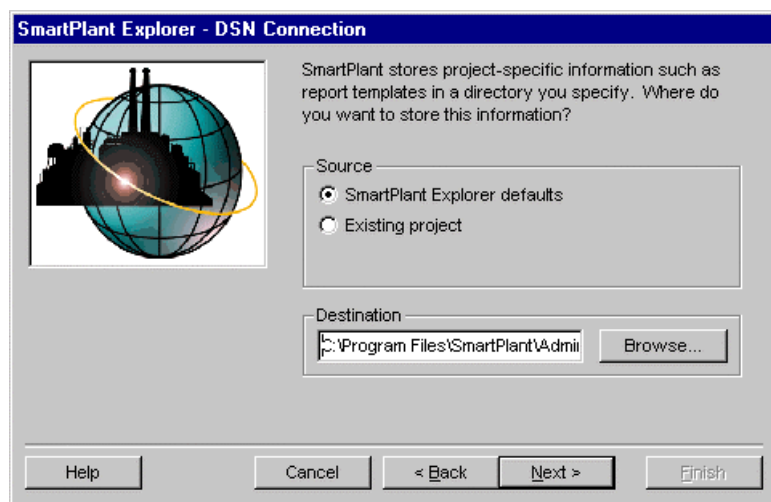
Publish を行う情報を選択します。Next> ボタンを選択します。



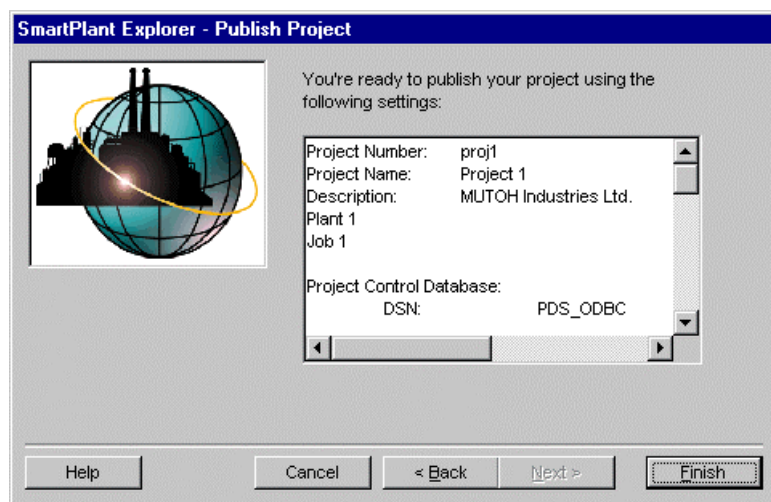
各項目に対して、データソース名、Oracle 上のユーザ名、パスワードを入力し、Next> ボタンを選択します。



レポートテンプレート等のコピー元、データの出力先を指定します。**Next>**ボタンを選択します。



入力した設定が表示されます。確認を行った後、**Finish**ボタンを選択します。



Publish が開始されます。なお、処理を終了するまでに、数十分程度の時間が必要な場合があります。Publish 終了後、必要に応じて Access Control の設定を行います。